

# ルーズブリックの使い方ガイド

観点	説明	4	3	2	1
A 適切な テーマ設定	課題に対して適切なテーマ設定がなされているか。	課題に対して適切なテーマ設定が <b>必要かつ明確</b> になされている。	課題に対して適切なテーマ設定がなされている。	課題に対して適切なテーマ設定がなされているが、 <b>箱の口が歪曲</b> である。	課題に相応しく適切なテーマ設定がなされていない。
B 主張となる 根拠の提示	主張したい事例に対する根拠となる資料を、データや先行研究から探しているか。	主張したい事例に対する根拠となる資料を、データや先行研究から <b>必要かつ十分な</b> 形で探し出している。	主張したい事例に対する根拠となる資料を、データや先行研究から探し出している。	主張したい事例に対する根拠となる資料を、データや先行研究から探し出しているが、 <b>出典が不明</b> である。	データや先行研究にあたる主張がなされていない。
C 論理的な ストーリー	主張したい事例に対する根拠をデータや先行研究で明記し、理由に照りあわせているか。	主張したい事例に対する根拠をデータや先行研究で明記し、理由に照りあわせて <b>十分な</b> 説得力がある。	主張したい事例に対する根拠をデータや先行研究で明記し、理由に照りあわせている。	主張したい事例に対する根拠をデータや先行研究で明記しているが、 <b>論理に照りあわせて十分な</b> 説得力をもちない。	理由を述べない形で主張を展開されている。





# Contents

---

- ルーブリックってなに??
- ルーブリックの仕組みと使い方
- ルーブリック活用のタイミング
- ルーブリックの評価方法
- ルーブリックの種類
- ルーブリックを使うメリット
- ルーブリックの作り方
- Let's Try! ルーブリック体験



## ルーブリックってなに??

ルーブリックとは、学生のみなさんが、授業やカリキュラムで求められる到達目標を、どの程度達成できているかを確認するための評価ツールです。【評価の観点(ポイント)】や【評価の基準】を提示することで、○×だけでは測れないレポートやプレゼンテーション、実習などの複雑な課題(パフォーマンス課題)を評価できます。

つまり、ルーブリックを用いてレポートやプレゼンテーションを評価することで、みなさんの目に見えにくい「努力」や「成果」が「見える化」されます。

本ガイドでは、ルーブリックを使う具体的なメリットと、有効な活用方法について紹介します。

## ルーブリックの仕組みと使い方

ルーブリックは、評価対象である観点の達成度レベルを3～5段階にわけ、各段階の評価の基準を文章化した表の形で示されます。

下の例では、4つの評価の観点それぞれにレベル1～4までの評価の基準が示され、該当する箇所にチェック(○や✓など)を入れ、4を超えるものには4+の欄にコメントを記入できるようになっています。

### 評価の基準

		評価の基準				
観点	説明	4+	4	3	2	1
評価の観点	<b>A</b> 意見の提示		自分の意見を根拠とともに過不足のない形で十分、かつ明確に提示している。	自分の意見を根拠とともに明確に提示している。	自分の意見と根拠との関連が認められるが、一部明確でない形で提示している。	自分の意見を根拠がない形で提示している。
	<b>B</b> 資料の扱い		資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として過不足なく十分に成立させている。	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させている。	資料の内容を把握した記述をしており、それを根拠として一部成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。
	<b>C</b> 文章全体の構成		序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を過不足なく十分、かつ明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を一部整理している。	序論・本論・結論に沿わない構成で、文章を記述している。
	<b>D</b> 議論の展開		複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開している。	複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開している。	複数の立場から、一部根拠に沿う形で自身の意見を展開している。	一部の偏った立場から、自身の意見を展開している。

レポートルーブリックの例

評価ポイントがはっきり分かるよ!

## ルーブリック活用のタイミング

ルーブリックは課題作成中の以下のタイミングで活用できます。

課題  
作成前

事前にルーブリックを確認し、課題で何が求められているかを把握する

課題  
作成中

随時ルーブリックを確認しながら課題を作成する

課題  
作成後

提出前に最終確認をし、ルーブリックにもとづき修正し、完成度を高める

課題  
提出後

提出後に教員からのフィードバックを受けて、自分の改善点を知る

## ルーブリックの評価方法

自己評価だけでなく、みなさん自身が他の人のレポートやプレゼンテーションの評価者となつて、ルーブリックを使う場合があります。例えば授業中にプレゼンテーションを行う場合は、以下のような手順でルーブリックを活用しましょう。

※担当教員の先生からルーブリックの使用について具体的な指示があった場合は、その指示に従いましょう。



### ルーブリックを使った評価例

- 1) 配付されたルーブリックに目を通します。
- 2) ルーブリックの項目を意識しながら、プレゼンテーションをしっかりと聴きます。
- 3) 該当する部分を○で囲み、気になる点や特によかったポイントなどをルーブリックの欄外に書きとめます。  
(「いいな!」と思う点や、「もう少し!」という点をルーブリックに書き込もう!)

## ルーブリックの種類

ルーブリックにはいくつかの種類があります。

まずは課題ルーブリックです。これは授業内で掲示するレポートやプレゼン等の課題に対して活用できるルーブリックを指します。次に科目ルーブリックです。これは授業科目の目標をルーブリックで示したものです。最後にカリキュラムルーブリックです。これはカリキュラム全体に対して作成したルーブリックです。

カリキュラムルーブリック

科目ルーブリック

課題ルーブリック

## ルーブリックを使うメリット

ルーブリックを使うことで、学生のみなさんにとって次のようなメリットがあります。

- ✔ 「教員が学生にできるようにしてもらいたいこと」を知ることができる
- ✔ 複数の評価者が評価しても同じ結果が得られる（＝公平な評価を得られる）
- ✔ 自分自身で改善すべき点を知ることができる
- ✔ 第三者（教員や受講生）から分かりやすいフィードバックを受けることができる

## ルーブリックの作り方

授業によっては、みなさんがルーブリックを作成する機会があります。評価の観点や基準を自分たちで設定することができるので、意欲的に取り組みましょう。

### ルーブリックの作り方の例

- 1) 評価の観点を考えて、付箋（メモ紙）に書き出す
- 2) 各自の付箋（メモ紙）を共有し、観点を選ぶ
- 3) 評価の基準を検討し、基準ごとに書き出し、基準を決める

ルーブリックはサークル活動にも使えるよ！

## No.1 ルーブリックで、レポートをチェックしてみよう!

(1) 次のレポートを、右ページのルーブリックでチェックしてみよう!

### サマータイム制度の導入について

〇〇学部1年 学籍番号〇〇〇 氏名 〇〇〇〇

#### 1. サマータイム制度とは

サマータイム(夏時間)制度とは、一年のうちで日照時間が比較的長い期間(通常は4月から10月までの約7ヶ月間)、時計の針を1時間進める制度である。この制度を導入すると、学校、会社、役所などのすべての活動が、これまでより1時間早く始まり、1時間早く終わる。夏は日の出が早いので、朝の明るい時間を無駄にせずに活動し、早く活動を終えて、夕方の明るい時間を有効に活用しようというのが、そのねらいである。

サマータイム制度は、アメリカやヨーロッパ諸国、中東などの多くの国ですでに導入されており、現在ではその数は70カ国を超える。日本でも、北海道で2004年から3年間、試行的にサマータイムを実施する実験がおこなわれるなど、サマータイム制度導入に向けた動きがあり、国会に法案が提出されるなどしているが、反対の声も大きく、いまだ実現には至っていないのが現状である。

このレポートでは、サマータイム制度を日本で導入することのメリットとデメリットをまとめたあと、サマータイム制度の是非に関する自分なりの意見を述べたい。

#### 2. サマータイム制度導入のメリット

サマータイム制度導入の賛成派は、次のようなメリットを指摘する。第1は省エネ効果である。それによれば、サマータイム制度の導入は、省エネルギーに大きく寄与する。なぜなら、朝の涼しいうちに活動を始め、日が暮れる前に活動を終えることで、クーラーの使用や、夜間の照明時間を抑えることができるからである。「生活構造改革フォーラム」の試算では、その省エネ効果として、原油換算で約93万キロ・リットル、温室効果ガス約40万トンの削減が見込めるという。

第2に、サマータイム制度導入によって、多大な経済波及効果が見込まれている。夕方の明るい時間を自由に使えるようになるので、同フォーラムの試算では、観光・レジャー産業を中心に、約9,700億円の経済波及効果があるということである。この他、夕方の時間帯を利用した新たなビジネスチャンスが生まれることで、この制度の導入がもたらす経済的効果は大きなものになると予想される。

第3のメリットとして、市民のライフスタイルが変化することによって、たくさんのよい効果が生まれると期待できる。まず、健康上の問題である。早く起床し、夜更かししないライフスタイルが身につくことで、より健康的な生活を送ることができる。また、帰宅や買い物の時間帯が明るくなるので、交通事故や犯罪の減少も期待できる。

#### 3. サマータイム制度導入のデメリット

以上のように、実施した場合に期待されるメリットの大きいサマータイム制度であるが、逆に大きなデメリットも指摘されている。

第1に、最も深刻なデメリットは、労働時間が増大する危険性があるということだ。残業が多い現在の日本の労働状況では、サマータイムは、かえって残業時間を増やしてしまい、労働の強化につながりかねない。早く仕事を終わらせて、そのあとを楽しむつもりが、単に労働開始時間が早まっただけという結果に終わる可能性が高い。

第2のデメリットとして、日本の風土をめぐる問題がある。そもそもサマータイム制度は冬の日照時間の少ない国で考案された制度であり、夏季にもっと太陽の光を浴びたいという健康上の理由から生まれている。日本の気候は、欧米とは異なり高温多湿である。夕方になっても涼しくならない日本の気候では、サマータイム制度を導入しても、あまり効果がないかもしれない。それどころか、夕方の活動時間帯が増えることで、逆に冷房コストが増大することにもなりかねない。

第3のデメリットとして、生活時間が変わることによる健康上の影響が挙げられる。サマータイムは、一方で人々をより健康にする可能性を持つとともに、逆に睡眠障害を引き起こしたり、生活のリズムを崩したりと、人々の健康に悪影響を及ぼす可能性も持っているのである。とりわけ4月は、日本では新学期の時期なので、この時期に時計の針をずらすことは、大きな問題を生む可能性がある。

#### 4. まとめ

以上、サマータイム制度導入のメリットとデメリットを検討した。サマータイム制度導入は、期待されるメリットとデメリットが拮抗しており、新聞の世論調査の結果を見ても、賛成38%、反対39%と、賛否が分かれている(朝日新聞、2005年3月実施)。その導入には慎重な検討が必要である。導入するとしても、いきなり欧米と同様のかたちで実施すると、多くの問題が起こるであろう。北海道でおこなわれたような小規模な実験を各地でおこない、実際に生じる問題を具体的に明らかにして、日本の風土と文化に合ったサマータイム制度のあり方を、慎重に議論していくべきだと思う。

(本文1,924字)

#### 参考文献

「どうするサマータイム」、朝日新聞、2005年4月8日、朝刊13ページ

「サマータイム推進議連 四苦八苦」、読売新聞、2005年6月12日、朝刊4ページ

財団法人省エネルギーセンター、「地球環境と夏時間を考える国民会議」報告書の概要、

<http://www.eccj.or.jp/Summe Time/conf/>、2006年4月1日確認

(出典：中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナビゲーター』くろしお出版、2008年、90～91頁。)

### ●レポートのルーブリック

評価の観点	評価の観点の説明	4+	4	3	2	1
<b>A</b> 意見の提示	自分の意見を根拠とともに明確に提示しているか。		自分の意見を根拠とともに過不足のない形で十分、かつ明確に提示している。	自分の意見を根拠とともに明確に提示している。	自分の意見と根拠との関連が認められるが、一部明確でない形で提示している。	自分の意見を根拠がない形で提示している。
<b>B</b> 資料の扱い	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させているか。		資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として過不足なく十分に成立させている。	資料の内容を的確に把握した記述をしており、それを根拠として成立させている。	資料の内容を把握した記述をしており、それを根拠として一部成立させている。	資料の内容を把握していない形で扱っている。
<b>C</b> 文章全体の構成	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理しているか。		序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を過不足なく十分、かつ明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を明確に整理している。	序論・本論・結論に沿った構成で、各論の内容を一部整理している。	序論・本論・結論に沿わない構成で、文章を記述している。
<b>D</b> 議論の展開	複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開しているか。		複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見をわかりやすく論理的かつ明確に展開している。	複数の立場から、根拠に基づく形で自身の意見を論理的に展開している。	複数の立場から、一部根拠に沿う形で自身の意見を展開している。	一部の偏った立場から、自身の意見を展開している。

メモ

(2) 評価結果を、ペア同士で確認してみよう！(なぜその評価にしたのか、気になる点など)

.....

.....

.....

.....

## No.2 ルーブリックで、プレゼンテーションをチェックしてみよう!

(1)以下のリンク先にあるプレゼンテーション動画をルーブリックでチェックしてみよう!

動画では、大学1年生が「大学生活を有意義に過ごすために必要な力とその力を育むことができる施設」について報告しています。

関西大学 講義収録・配信システム

<https://cm.itc.kansai-u.ac.jp/Gateway/contentPlayAction.do?contentId=201611183826&popup=yes>



### ●プレゼンテーションのルーブリック

評価の観点	評価の観点の説明	4+	4	3	2	1
<b>A</b> 主張・論点 の提示	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめているか。		主張や論点を明確にテーマに沿う形で十分に提示しており、伝えたい内容の要点を過不足なくまとめている。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめている。	主張や論点とテーマとの関連が認められるが、明確でない形で提示している。	テーマに沿わない形で主張や論点を提示している。
<b>B</b> 視覚情報・ 資料の扱い	視覚的な情報(図表、イラスト等)や資料(配布物等)を効果的に使用しており、伝えたい内容をわかりやすく提示しているか。		視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容を明確にわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を一部必要に応じて扱っている。	視覚的な情報や資料を効果的でない形で扱っている。
<b>C</b> プレゼン テーション 全体の構成	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話しているか。		プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で明確に話している。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、一部筋道の立った順序で話している。	筋道の立っていない順序で話している。
<b>D</b> 発表の態度	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えているか。		話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、聴衆の反応を見ながら自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容をある程度説得的にしている。	プレゼンテーションの内容が伝わりづらい発表態度で話している。

メモ

(2)評価結果を、ペア同士で確認してみよう!(なぜその評価にしたのか、気になる点など)

.....

.....

.....

.....

.....



### No.3 ルーブリックを作ってみよう!

(1) 次のテーマから一つ選び、グループで3段階のルーブリックを作ってみよう!

- レポート
- プレゼンテーション
- そのほか(自由にテーマを考えてみよう!)



ルーブリックの作り方については、5ページを確認しよう!

#### ルーブリック

評価の観点	3	2	1

(2) 作成したルーブリックを、グループ同士で共有してみよう! (評価の観点・評価の基準など)

.....

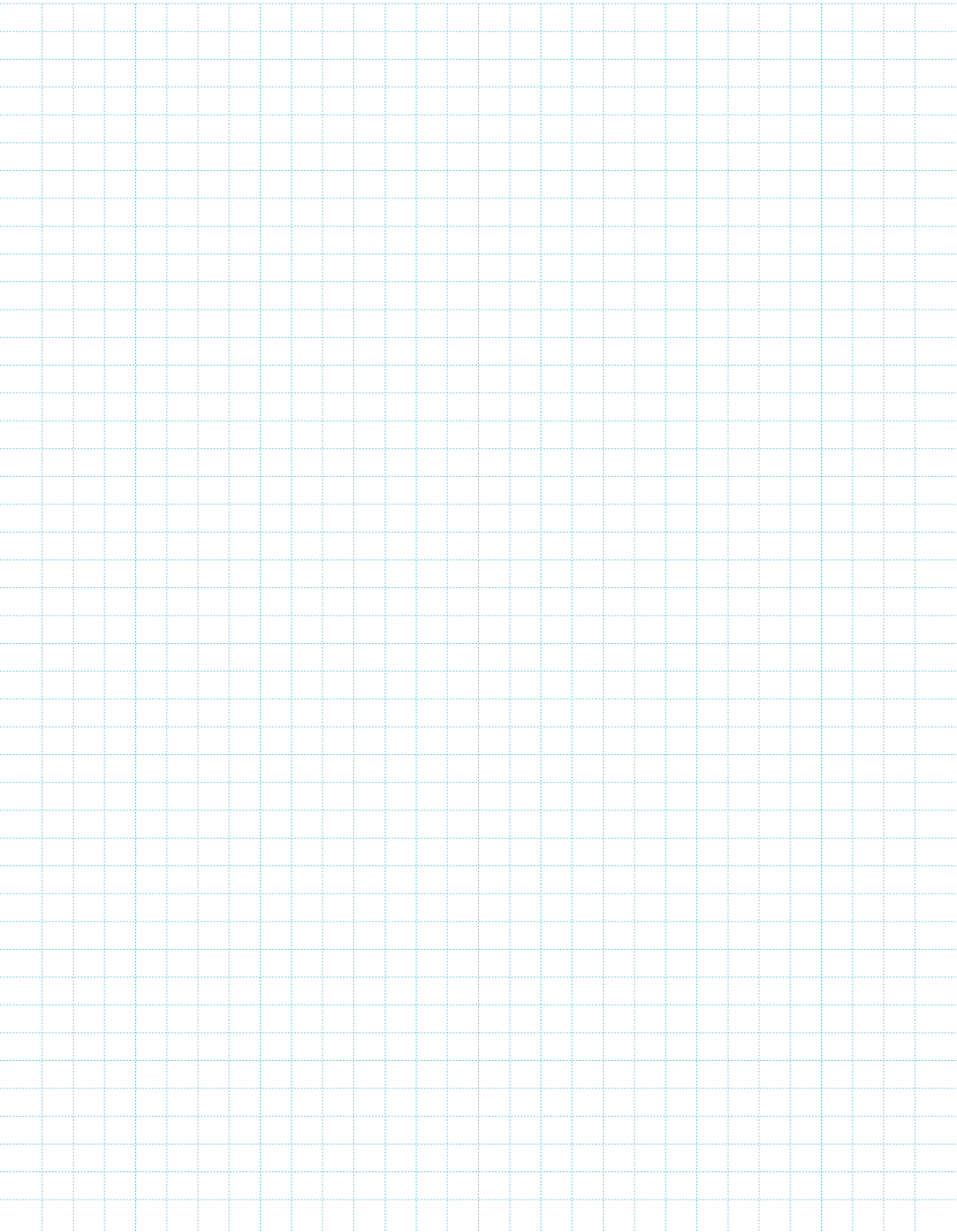
.....

.....

.....

.....

memo



主要参考文献:

- ダネル・スティーブンス、アントニア・レビ(佐藤浩章監訳)(2014)『大学教員のためのルーブリック 評価入門』、玉川大学出版部
- 中澤務・森貴史・本村康哲編(2008年)『知のナビゲーター』、くろしお出版
- 西岡加名恵、石井英真、田中耕治(2015)『あたらしい教育評価入門』、有斐閣コンパクト

執筆者:千葉美保子(元教育推進部 特別任命助教、現甲南大学 共通教育センター 講師)  
監修:岩崎千晶(教育推進部 教育開発支援センター 准教授)



平成26年度「大学教育再生加速プログラム(AP)」採択  
21世紀を生き抜く考動人<Lifelong Active Learner>の育成

大学教育再生加速プログラム

**関西大学 教育推進部**  
**教育開発支援センター**(CTL:Center for Teaching and Learning)

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

千里山キャンパス 第2学舎1号館1階

E-mail [ap-info@ml.kandai.jp](mailto:ap-info@ml.kandai.jp)

教育開発支援センター <http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/>

AP取組Webサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/ap/>

2016年11月15日 第1版第1刷発行

2018年 4月25日 第1版第2刷発行

編集・発行:関西大学 教育推進部 教育開発支援センター

Copyright © Kansai University. All Rights Reserved.

関西大学の先生は自由にご利用ください。